

議論のためのたたき台(070427)

〔 近畿圏の戦略を検討するための素材(案) 〕

(自然環境)

1. 琵琶湖・淀川流域、大阪湾を対象に、環境の保全・再生や環境負荷を低減するライフスタイルの実践(ライフスタイルイノベーション)など、環境共生のモデルづくりを圏域として取り組み、環境技術の先進圏域として、世界・アジアにおけるプレゼンスを高める。
2. 太陽電池や燃料電池等の先端技術の開発や、自然環境を保全など総合的な取り組みにより、CO2収支のバランスをとれた圏域を目指す。
3. 大都市と農山漁村との交流・役割分担(生産と消費、仕事と余暇など)により人と自然が調和した圏域を目指す。

(大都市)

4. リーディング企業や大学・研究機関が必要とする、優れた人材を近畿圏に確保するため、アジアの中で「住みたい都市」、「行きたい都市」にランキングされる都市を有する圏域を目指す。
5. 少子高齢社会においても、活力を失わず、生き生きと暮らせるまちづくりのモデルケースを目指す。
6. 都市と農村が近い距離にあることから、両者が調和したうまいおいのある都市づくりを目指す。
7. 各自治体がまちごとに個性ある都市戦略を持つことで、都市の個性やアイデンティティが確立された真に豊かな圏域を目指す。

(地域(多自然居住地域等))

8. 都市と自然の両方に触れることで多様なライフスタイルを実現できる圏域として、国内外の生活の質を求める人が憧れ、移住し、価値観の交流が盛んな圏域を目指す。
9. 平日は都心で「仕事」、休日は農村地域で「暮らす」という暮らしが可能な、都市と地方の両方を楽しめるライフスタイルがある圏域(近畿版ロハスの提案)を目指す。
10. 国土や伝統文化の保全を図るため、地域社会の維持・再生を目指す。

(産業・物流)

11. 世界最高水準のバイオ・ライフサイエンス研究拠点を形成し、医療(再生医療、創薬)、先端的分析機器、ものづくりバイオ(バイオプロセス・環境、技術)の分野で国際競争力のある圏域を目指す。
12. ITとRT(ロボットテクノロジー)が融合した次世代産業やユビキタス社会にふさわしい情報家電(製品)・サービスなど高付加価値を創出する企業が集積した、イノベーション力のある圏域を目指す。
13. ベイエリアに都市部の生産機能を集約、世界標準の物流インフラに重点投資、快適な住環境と調和した次世代都市モデルを提案し、企業がベイエリアを選択する立地条件を整え、東アジアとの競争により、経済競争力を高められる「場」をもつ圏域を目指す。
14. 高付加価値部品(コア部品)を国内で生産し、汎用部品の調達・製品の組立をアジアで行う(垂直分業)、あるいは東アジアで廃棄された半導体からレアメタルを抽出・輸出する高度な

リサイクルなど、近畿圏の中小企業を含むものづくり産業の集積を強みに、国際分業など競争優位なビジネスモデルがあるバイエリアを目指す。

（歴史・文化）

15. 海外に向けて日本のイメージを的確に発信し、国際社会における日本の存在感を高める。ポップカルチャー等現代文化の創造と発信を行うとともに日本商品の国際競争力を高めるなど、「日本らしさ」のブランドづくりで日本をリードする圏域を目指す。
16. 美しい都市空間の形成や文化的景観の保全をテーマに社会資本整備を行い、伝統文化の保護に必要な人材・技能を守り、「日本の宝」である文化財を大切に継承する圏域を目指す。
17. 近畿圏が育んだ文化遺産・伝統文化・伝承する制度を、インフラストラクチャー、ソーシャル・キャピタルと並ぶ重要な社会資本「文化資本」と位置づけ、これを基盤に現代の生活にそった新しい文化や価値を創造（ライフスタイルイノベーション）するクリエイティブ産業を振興する。

（景観）

18. 美しい都市空間の形成や文化的景観の保全をテーマに、くにづくり・まちづくりを行い、「美しい国・近畿」を目指す。これによりアジアにおいて、最も美しく、特色のある景観（ランドスケープ）を有する地域として認知され、多くのビジュアル（写真や映像）が世界に発信される圏域を目指す。
19. 風景・風土の上に位置づけられた特徴ある圏域の景観形成を目指す。

注）**文化的景観**とは、「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの（文化財保護法）」

（観光）

20. 訪日外国人旅行者に占める関西発着の旅行者数の割合を高め、観光による経済的波及効果が大きな圏域を目指す（ビジットジャパンでは2010年に1,000万人/年が目標）。
21. 近畿の歴史、伝統文化、豊富な文化財を維持していくとともに、当該地域の生活と共存する新たな観光資源の開発、文化の創造を行い、魅力ある観光地としての圏域を目指す。
22. 外国人旅行者の受入環境の抜本的改善、地方自治体や民間における国際交流の拡大、国際会議の誘致等を行い、先進的な国際観光地を目指す。

（居住環境）

23. 教育（小中学校など）、医療・子育て支援、質の高い住宅を、今後の重要な生活インフラと位置づけ、アジアで最も安心・安全に子供を育てられる圏域としての地位を確立する（子供の安心・安全を市民が実感し、結果として最も出生率の高い圏域となる）。

（防災）

24. 阪神・淡路大震災の経験と教訓を生かし、防災関連の研究機関が集積する圏域としてアジアから認知され、平常時は研究の交流拠点、非常時はアジア・太平洋地域の救済拠点として信頼される圏域を目指す。

（バックアップ）

25. 想定外の事象に対応する国家「日本」において、行政・金融・産業等の諸機能を代替する

バックアップを担う圏域を目指す。

(東京一極集中の是正)

26. 都市と自然、研究と産業、歴史と文化等なんでも揃った、自立した圏域を形成し、都市国家のモデルとして、アジアの多くの都市の見本となる圏域(ミニチュア国家)を形成し、カネ・ヒト・モノが自然と集まることにより、東京一極集中の是正を目指す。多様性が健全な国土を持続・発展させるという観点から、東京とは異なる構造である多中心型の近畿大都市圏(大阪、京都、神戸)を東京と匹敵する大都市圏として位置づける。

(新しい「公」)

27. 分野を越えた人と人のコミュニケーションと異なる価値のコラボレーションが最も盛んな強みを活かし、まちづくりに市民参加のプロセスが定着し、状況により目標を柔軟に変更できる体質があるなど、ソーシャル・キャピタルを社会資本の重要な要素として確立した圏域を目指す。

注1) 社会資本とはゆたかな経済生活を営み、すぐれた文化を展開し、人間的に魅力ある社会を持続的、安定的に維持することを可能にするような社会的装置

注2) 社会資本＝道路などインフラ＋人間関係などソーシャル・キャピタル(社会関係資本)